

第四十三回 全日本中学生水の作文コンクール

広島県優秀作文集

令和三年 広島県土木建築局

目次

優秀賞

世界を変える雨水	近畿大学附属広島中学校東広島校	三年	牛垣結
私達の生活と水の大きな関わり	近畿大学附属広島中学校東広島校	三年	梅原惟菜
僕があたり前に飲んでいる水	近畿大学附属広島中学校東広島校	三年	福本航大

入選

水を人と人とでつなぐ	海田町立海田西中学校	一年	兼綱千咲
その日は来た	広島県立広島叡智学園中学校	二年	井戸彩名
限りある「水」を未来に残そう	広島県立広島叡智学園中学校	二年	北川菜穂子
安全な水を支えて下さる方々	広島県立広島叡智学園中学校	二年	橋本智泉
水と食	広島県立広島叡智学園中学校	二年	須田莉乃子
文学と水の繋がり	近畿大学附属広島中学校東広島校	三年	岸優里
未来につなぐ貴重な水	AICJ中学校	三年	西村みつね
私たちの暮らし方	福山市立精華中学校	一年	西山桃可

世界を変える雨水

近畿大学附属広島中学校東広島校 三年 牛垣 結

世界的に水不足が懸念される近年、雨水利用」とい言葉が注目されている。雨水利用とは、建物の屋根等に降った雨をタンクに溜め、溜めた雨水を色々な用途で活用することだ。代表的な用途の例を三つ挙げてみたい。

一つ目は植物への灌水だ。雨水には、空気中の窒素分が溶け込んでいするため、肥料成分として働き、植物の成長を促すことにもつながる。二つ目は雑用水としての利用だ。自動車やアウトドア用品、ペット用品や園芸用品等を洗うために使用することができる。雨水が由来だから、必要量でしっかり洗うことができる。三つ目はトイレの洗浄水だ。実は一般家庭の場合、水道の使用量が最も多いのはトイレの洗浄水であるため、雨水を使用することで、エネルギーを使って浄化されている水道水の利用量が減り、環境にも優しくなる。

この様に、雨水は主に水道用水ほど良い水質を求めている家庭用水に利用されている。

そのような雨水利用には、嬉しいメリットが他にもいくつかある。

一つ目は、前道の水道水の利用が減ることにより、水道代の節約が期待できることだ。二つ目は、大規模災害による断水時の生活用水にもなることだ。地震や豪雨等で被災した時に雨水を溜めていけば、断水時でも最低限の水を使うことが出来るようになるだろう。三つ目は、近年特に顕著な都市型洪水の軽減だ。都市で雨水利用が十分に普及すれば、都市で降った雨が家に一時的に留まるため、道路に注がれる雨水の量が減少すると考えられている。四つ目は、環境教育に最適だということだ。溜めた雨水がなくなると水が出なくなるため、蛇口を捻ればきれいな水が出る時代に生まれた最近の子供たちでも、水を大切に使わなければならぬ」とい気持ちを持ちやすい。もったいない」とい気持ちを持ち

生まれ、水の流しっぱなしはもちろん、照明やテレビ等の無駄な使用も減ったという人もいるようだ。

その一方で雨水利用にはデメリットもある。雨水には、屋根や雨どいにあった虫の死骸や空気中のチリ等が溶け込んでいるかもしれないため、飲み水としての利用はそのままでは難しい。又、降水量の変動が大きく、確保できる雨水の量が不安定だという地域もある。

しかし、雨水利用のメリットの方がデメリットよりも大きいため、近年の雨水利用施設数と雨水利用量は共に増加傾向にある。

私は、この雨水利用は環境への負担を軽減すると同時に、人々の工口意識を向上させる、非常に良い手段だと思う。だから私は、水を沢山必要とする国内の各家庭に普及して欲しいと思う。さらに国内だけでなく、海外の発展途上国にも普及させることが出来れば、SDGsの六安全な水とトイレを世界中に」という目標に近づけることが出来ると思う。そのために、先進国が協力して、水不足に苦しむ世界中の人々を救うことが出来ると、私は考える。合わせて、雨水を飲料水として利用できる水にするためのろ過装置も設置できれば、現地の人々の健康維持にも寄与することが出来るのではないだろうか。

私は、雨水利用は世界中を変える、大きな力を秘めていると思う。雨水利用は、世界中の水不足に苦しむ人々に救いの手を差し伸べ、人々を勇気づけるだろう。私は、世界中に雨水利用が広がり、人々が笑顔で生活できるような社会を思い描いている。将来を担う私たちには地球に優しい暮らしがこれまで以上に求められているため、雨水利用を通して、私たちが環境ファーストな世界をつくり出していきたいと思う。

優 秀 賞

私達の生活と水の大きな関わり

近畿大学附属広島中学校東広島校 三年 梅原 惟菜

私達は日々の生活の中で、水をあたり前にあるものとして使用しています。そして、水は人が生きていくためにはなくてはならないものです。しかし、その水という存在が時に人の命をうばうのです。私達、広島県民はそのような出来事を身をもって体験しました。

平成三十年七月、広島は豪雨に見まわれました。多くの被害者をだしたこの豪雨も水によるものです。私はその光景を忘れてはいません。いつも通っている道が水で溢れかえり川が氾濫していました。私の祖母達は一階へ逃げたそうです。幸いな事に身内で亡くなった人はいませんでしたが、死者をだしたこの豪雨はとても悲惨なものでした。私は、通常であれば三十分で着く祖母の家へ、川の氾濫の被害により二時間以上かけ、手伝いに行きました。水のせいでこのような被害を受けたにもかかわらず、水に困っていません。家や車に水が浸水し、何から手をつければいいのか分からないような状況でした。その時の祖母や祖父は憔悴しているにもかかわらず、孫のために明るくふるまおうとしてくれており、とても心が痛みました。

また、私の父はダムで働いています。その時の父はダムの管理のためなかなか家に帰ってこねず、帰れたとしてもとても疲れているような面持ちでした。

このような経験を経て、水は時にとても恐ろしいものへと変わり、しかし、生きていくためにはなくてはならない物という事を痛感しました。今、このようなテーマにそって調べるにあたって父の仕事についてくわしく聞いてみました。

ダムの目的としては、ちよつどいい川の流れを保つこと「だそう」です。水道水をはじめ、農業用や工業用の水は主に水の流れを利用して「いる」ことで、そのため、私たちが使う水が不足することがないように、

ダムに貯まった水の量を調節することで洪水の影響を少なくしているようです。ダム管理事務所の職員は、そうした目的のために、ダムの機能を十分發揮できるように管理しており日ごろから放流設備の点検などをしたり管理に必要な気象情報などを集めたりなどたくさんのごとに気を配って仕事をしているそうです。

今回、水について調べていく中で、一番重要なことだと思ったのは、水は、人の命を支えるものであり、怖いものであるという事を忘れず生活することです。常日頃から、水は限りある資源だという事を忘れず、感謝しながらこれから生活していくことと思います。そして父の仕事について、これまでは詳しく知っていませんでしたが、仕事内容をしり、父も陰ながら人の命を守っていたのだと分かり、もっと父が私の誇りになりました。今、私達が飲んでいる水も多くの人達に支えられて流れてきたのもだということを忘れず感謝して今から生きていくことと思います。

ぼくがあたり前に飲んでいる水

近畿大学附属広島中学校東広島校 三年 福本 航大

水道から衛生的で安全な水が出る。毎日お風呂に入って体を洗う。僕の日常の中で、これらはあたり前のことです。

水の惑星と呼ばれている地球では、近年水不足が深刻な問題となっています。地球上にある水の九十七パーセントが海水で、飲用水として利用できるのは地球上にある水のうちの約0.01パーセントしかないと言われています。

近年、人口の増加や人々の生活の発展によって、水の使用量が増え、世界中で水不足が問題となっています。また、大陸を流れる大きな国際河川の場合、一本の河に複数の国が使用権を持っていることによる問題も起こっています。国境をまたぐナイル川は、エジプト、スーダン、エチオピアなど九か国が水源として利用していますが、二〇一〇年以前はエジプトが使用権を独占し、水の分配などを巡って紛争が起きました。中国からベトナムに向かって流れるメコン川では、上流の中国が許可なく大規模なダムを建造し、下流のカンボジア、タイ、ラオスといった国々に急激な水位低下が続き、農業、漁業、生態系に深刻な被害を及ぼしました。水資源確保は力を持った国の利益が優先され平等に分配することが出来ないからです。発展途上国では、水資源確保が難しいことに加え、水道、下水道処理設備が整っていないため、世界人口の約三分の一である二十二億人が安全な水が飲めず、四十二億人の人が衛生的なトイレを使えていません。そのことによる感染症や下痢による脱水で多くの人が亡くなっています。

これらの問題に対し、一九七七年に国連水会議、一九九二年に水と環境に関する国際会議が開かれ、淡水は限りある資源であり、水資源の開発や管理は人々が行うべきと呼びかけられました。そして近年、二〇一

五年に国連サミットでSDG^s 持続可能な開発目標が採択されました。SDG^sでは十七の目標が掲げられています。その六番目に安全な水とトイレを世界中にという目標があります。二〇三〇年までに、すべての人々の安全で安価な飲料水の普遍的かつ衡平なアクセスを達成する、すべての人々の、適切かつ平等な下水処理施設、衛生施設へのアクセスを達成し、屋外での排泄をなくすことが挙げられています。

ぼくがあたりまえに使っている水、あたりまえに飲んでいる水をあたりまえに使えない人が世界でたくさんいる事実に驚きました。

今のぼくができることは何があるだろうか。国連機関やNPO・NGOによって井戸などの給水ポンプの設置や補水塩の配布などが行われています。中学生のぼくは、その活動に参加するのは難しいけど、NPO・NGOの活動資金に寄付をするのはできると思います。

世界の水事情や、国連総会で定められている水が衛生に関しての三つの国際デー、三月二十二日の世界水の日、十一月十九日の世界トイレの日、十一月五日の世界津波の日についてなぜさだめられたのか詳しく調べ、周りの人に寄付を呼びかけていくこともできます。そして、なによりも日々の生活の中で水をむだに使わないこと、汚れた水を川や海に排出させないことを意識して生活していくことも大切だと思います。

ぼくがあたりまえに飲んでいる水が、世界中であたりまえになる日が来ることを願っています。

水を人と人とでつなぐ

海田町立海田西中学校 二年 兼綱 千咲

水は、色んなことに活躍してくれます。例えば、お米を洗ったり、たいたりする時に使う水、喉が乾く時に飲む、お茶や水。などなど様々な馬券で水が使われます。なにもかも原点は、水なのです。それでは、考えてみましょう。みなさんが飲んでいる水がもし、汚れた水だったらみなさんはどう思いますか？私は、本音で言うと、あまり飲みたくはありません。思い方はそれぞれだと思います。ですが、この汚れた水を飲まなければいけない国が、数多くあります。小さい子供達でも大人でも高齢者でも、きれいな水が飲めないのです。汚れた水の中には、バイキン、害虫など、体に悪影響しかありません。なので、まだ、夢や希望がもてる子供達が数多く亡くなられます。何故きれいな水が飲めないのでしょうか。今から、そのことについて、書いていこうと思います。

何故汚れた水を飲んでいるのでしょうか？私が思おう理由は、水をきれいにする技術がまだ伝わっていないからだと思います。日本は、先進国です。汚れた水をきれいな水に変えることは、当たり前なのです。ですが、汚れた水を飲む国々には、汚れた水を飲むのが、当たり前だと思っているのだと思います。先進国の国も多いですが、発展途上国の国も多いと思います。

私達が発展途上国に住んでいる人々をどう助ければよいでしょうか。私が考えるのは、一人一人が、水の大事さについて知ることです。どれだけの人が汚れた水で苦しんだり、命を落とすか、一人一人深く考えてみてください。私は、将来みんなが苦しまず、笑っていられる、そんな世界を作りたいです。小さなことでもいいのです。きれいな水が飲めない人の気持ちを少しでも分かってあげてください。それが私の願いです。そして、いつか、発展途上国をのこしましょう。一人

一人が小さいことにも取り組んでいけばいつか、みんなが笑って暮らせる日が来ます。同じ人間どうして、前向きに走っていきましょ。そして、水を人と人とでつなぎましょ。

入選

その日は来た

広島県立広島観智学園中学校 二年 井戸 彩名

そう、あれは2020年6月のこと。

2020年4月、私は地元・香川県を離れ広島県の離島にある全寮制中学に入学した。慣れない広島弁や洗濯、集団生活に早く馴染みたいと思いつながら、2ヶ月。ようやく学校生活に慣れてきた頃、突如としてその日はやってきた。

その惟日の前日から大雨で朝には小降りになっていたものの、屋根を伝う雨音はしっかり寝起きでぼんやりしている私の耳にも届いていた。その時、寮内に珍しく早朝の放送が入った。

現在、寮内の水が使えません。」

え？！私トイレも済ませてないし、洗顔も歯磨きもまだなんだけど。ベッドから飛び起きて、隣の居室に居る友達と洗面所に走った。蛇口をひねる。チョロチョロと、申し訳なさそうな水が一筋、震えながら出ている。やった！

出たー弱いけど出てるね。次トイレー」

確認するが、水流が弱すぎてトイレは使えない。絶望。行きたいのにどうしよう。寮内には同じようにトイレに行けていない友人がいて困惑している。ランドリーに行けば使えるんじゃない？」の一言にみんな齊に自室へと着替えに戻り、我先にとタッシュユでランドリーに向かう。ランドリーのトイレは「応、使えた。救われた。」

そうこうしている内に朝の清掃時間となった。私はトイレ担当なのだが、案の定、水は少ししか出ず、いつものような洗い掃除はできなかつた。朝から洗濯をするつもりだったが、もちろんそれも叶わなかつた。寮内と食堂付近の水だけが止まっている。それだけは、私たちも分かっていた。

そして朝食の時間は定刻より遅くなっていた。それでも何とかいつも通りみんなで朝食を食べられたが、食器を片付ける時の風景はいつもと

違っていた。いつもなら、お皿を蛇口の水ですすいでからシンクに張られた水の中にその食器を入れていく。しかし、今日はすすぎ作用はなく、シンクに張られた少しの水に皆がお皿を入れていくので、みるみるうちにシンク内の水は汚れていった。

学校での授業が始まり、休み時間。ウォータークーラーは使えなくなっていた。当たり前か。

朝食はギリギリいつもの時間に食べることができた。そして数人の友人と食堂の前の蛇口をひねってみたら、水がいつもよりは若干弱かったけど、出たのだ。

水、出たー！

戻ってる。やったー！歓喜の雄叫びが空間をつんざく。ホッとした。

この断水は水のことを考える機会になった。

私の出身地、香川県では濁水になる時があり、テレビのニュースで天気予報の後にダムの水量や取水制限について当たり前のように流れている。ため池も無数にあり、日本の中では比較的、水を意識しながら生活してきた方だと思う。香川県では数年前に濁水があり、節水目的で、お箸箱を各自で持参することになったのを覚えている。でも蛇口の水が出ないという事態に陥ったことはなく、広島県の水に囲まれた離島でそれを初体験するとは思ってもみなかった。

数時間でも、水がないと生活が制限される。あの日以来。私はペットボトルのお茶を多く居室に備蓄している。水のありがたみはもちろん、恐怖も感じてしまったからだ。

私は将来、外国で済んでみたいと考えているが今、興味がある中南米の国では安全な水がある保証はない。衛生的な水を使える数少ない国である日本に生まれた私にできることはあるはまだ。SDGs」にも安全な水とトイレを世界にという目標がある。水を守るために自分のできることを考え、発信していくこと。子の作文も、その第一歩だ。

限りある 水」を未来に残そう

広島県立広島叡智学園中学校 一年 北川 菜穂子

自然災害」それは、危機的な自然現象によって人名は人間の社会的活動に被害が生じる現象を言う。自然災害のなかにも種類はたくさんあるが、その中に「水」によって起きるものがある。例えば、豪雨や洪水、津波などだ。これらの自然災害によって、今までたくさんの方の命が奪われてきた。

同じような悲しみをくり返してはいけない。「そんな思いから、災害の原因を探し、解決に取り組んでいる人たちもいる。しかし、その災害の原因を「防災」にすぎただけでいいのだろうか。

地球上の水は無限ではない。これから先の未来で私たちと同じように水を使って生活していく人のためにも、私たちは水を大切に使うべきではない。一人一人が節水を心がけることももちろん必要だが、それだけでは限界が来る。そこで、自然災害の原因を「水を大切にすること」に生かすことはできないだろうかと考えた。

水によって引き起こされる自然災害のひとつに「土砂災害」がある。土砂災害とは、山や崖が崩れたり、崩れた土砂が雨水や川の水と混じって流れてきたりすることによって、人命が奪われたり、建物が押しつぶされたりする災害のことだ。過去の土砂災害事例の中には、通常を超えた大量の雨が、土地に影響して引き起こされたものがある。「これは、雨が地中に浸透し、浸透した水分が土地をゆるませるためにおこると考えられている。そのため、斜面を崩れにくくするために、斜面にコンクリートの枠を取り付ける工事を行ったり、斜面の下に、崩れてくる土砂を受け止める壁や柵を斜面から少し離れた場所に作ったりする対策が行われている。

これらの取組みは、土砂災害を防ぐためにとっても効果的だと言える。しかし、目的は「土砂災害による被害を防ぐ」というものだけだ。防災」という面で見るときはこれで十分だが、水を大切に使うこと「が

必要とされている私たちにとって、これは大きなチャンスだと思う。

土砂災害の原因となっている「水」これを、資源として活用することはできないだろうか。地中に染み込んでしまった水を、植物が影響が出ない程度に吸収し、ろ過して、それぞれの家庭に届くような仕組みを作れば、土砂災害を防ぐこともできるし、限りある水を大切に使うこともできる。

自然災害」それは、私たちに大きな被害をもたらすものであり、時にはたくさんの方の命を奪うこともある。しかし、それを「防ぐ」だけではなく、これからの未来のために「生かす」こともできるのではないだろうか。

私は、これからの未来のためにも、限りある「水」を大切に、未来に残していきたいと思う。

安全な水を支えて下さる方々

広島県立広島叡智学園中学校 一年 橋本 智泉

皆さんは一日どれくらいの水を使っているかわかりますか。私はわかりません。そこで、インターネットを使って調べてみたところ、日本人は、一日あたり三〇〇リットルの水を使っていることがわかりました。これは非常に多いといえます。なぜなら、世界では一人あたりわずか五リットルの泥水を汲むために毎日〇時間かかることもあるからです。しかも、泥水を使って生活するため、下痢になってしまう人も多く最悪の場合命を落とすことにもつながるそうです。泥水を使わざるを得ないような安全な水がない環境の国もある中、私たちは日々水質管理のされた水を使っています。では、泥水からどのようにして私たちの使う水となり、どのような方々に支えられているのでしょうか。私は小学校三年生の頃に地元の浄水場に校外学習として行き、学びました。そこでは、本当に様々な工程を通してダムや川の水が水道水になっています。浄水場の管理をして下さる方々は、安全な水を支えて下さっているな、と感じました。他にもそのように安全な水を支えて下さる方々、水道水や工業用水の水質管理や水質検査をして下さる方々がいることを知りました。このように私たちの飲み水ともなる水道水を支えて下さる方々が大勢います。確かに、直接安全な水を支えて下さる方々もいますが、間接的に安全な水を支えて下さる方々もいると私は考えました。例えば、海岸清掃をして下さる方々です。なぜなら、川から浄水場をとり下水になった水は、下水処理場を通ってから海へ流れ、蒸発して雲となり雨が降り山から水が湧き出て川となり、再び浄水場で水道水となるからです。つまり、水は循環するということです。だから、海をきれいにすることとは、結果的に自分たちの安全な水を作ることにつながるのです。そして、海は世界中でつながっているため、前で話したような安全な水が飲めない子どもたちの環境に改善にもつ

ながると思います。

私は、夏休みにボランティアで海岸清掃をしました。この活動は自分のために世界中の子どもたちのために続けようと思います。今回、安全な水を支える行動を考えただけで、続けようと思っただけで済みました。この作文コンクールを開催して下さった方々も安全な水を間接的に支えて下さっていると思います。最後に、今安全な水が様々な人に支えられて使っていることに感謝したいです。

水と食

広島県立広島観智学園中学校 二年 須賀 莉々子

私たちは、生きるために、食べる「ということが毎日の生活の中で必要になっていきます。自分たちの「食」を創りあげ、支えているのは紛れもなく、水の存在なのではないでしょうか。

例えば、私たちがよく食べている「肉」が例として挙げられます。牛肉、キログラムを生産するには、その約二万倍もの水が必要になってくるといわれています。普段、私たちは何気なくお肉を口にしています。しかし、そのお肉が私たちの食卓に並ぶために、膨大な量の水が生産を支えているのだという事実を知ると、改めて感謝の気持ちが芽生えるのではないのでしょうか。

私の父は農家であり、田んぼでコメを栽培しています。毎年、五月ごろに田植えをし、受月ごろに米を収穫します。私はその農作業にあまり関わったことがなく、父があたり前のように毎年米を栽培し、それを当たり前のように美味しくいただいています。

毎年、栽培気候にも恵まれており、問題もなく、美味しい米を食べてきましたが、去年は米を栽培するのに少し苦労したそうです。田植えを終えた六月ごろ、梅雨の影響で雨が長々と続きました。お目を栽培するためにも水は欠かせません。そのため、雨が降ることはとても良いことです。しかし、あまりにも雨の日が続いたため、稲が腐ってしまわないか、ということとても心配したそうです。さらに、梅雨が明けると今度は、雨が全く降らない日々が続きました。父は毎日のように田んぼへかよい、太へ水を運んでいるタンクを見に行っていました。去年の夏頃、父はこのようなことを言いました。

采作りに水、特に雨が欠かせないが、人間の手で動きをコントロールすることは難しいから、どうしようもない。

私たちの「食」を支えてくれている水は、牛や豚に飼料を与える時や、野菜や果物を栽培していく中で灌水をするときなど、ある程度人間がコントロールできる場合もあります。

しかし、米作りにおいては、自然な水に頼る部分が多く、自分たちの力だけで水の動きを調整することができません。

去年の米作りはなんとか成功し、例年通り美味しいお米を食べることができました。人間の力でコントロールできない「自然の水」の力を借りて、様々な問題を乗り越えて育てられた父の米は、より「層美味しく感じられました。今までは当り前のように口にしていた新米ですが、栽培してくれた父と、米作りを支えてくれた水へしっかりと感謝していただくことができました。

このような経験をし、日々の「食」を支えてくれる水へ何ができるかということを考えました。自分たちに出来ることは、やはり水を大切にすることだと思います。水がなかったら自分たちの食生活はもちろん、生きることさえできなくなります。水への感謝の気持ちを込めて、水の出しっぱなしを防いだり、さらに世の中でとても深刻化している「海洋汚染問題」を解決するために、海岸清掃を行ったりしていきたいと思っています。

自分たちの「食」を作り上げてくれている大切な水に少しでも恩返しをしていきたいです。

文学と水の繋がり

近畿大学附属広島中学校東広島校 三年 岸 優里

最近私は、ちはやぶる 神代もきかず 竜田川 からくれなゐに水くくるとは」という小倉百人一首の歌を知りました。この歌は在原業平が歌った歌で、竜田川が流れる紅葉で真紅に水をしほり染めにするとは人の世にも神代にも聞いたことがない」という意味の秋の歌です。この歌を知って私は単純に綺麗だと思いました。川に紅葉の葉が水面に敷き詰められている情景が頭にうかんだからです。そして同時にこの歌のほかにも川や水とつながりのある歌はどんなものがあり、どんな思いや景色が込められているのかに興味を湧いてきました。

私が調べてみたところ、小倉百人一首にあるうたのなかに川が出てくる歌は七首ありました。その内、一首が夏の歌で恋と秋の歌がどちらも三首ありました。これを見てまず私は違和感を覚えました。私は川と聞いて一番に思いつく季節は夏なのですが、川は夏の歌には一首しかでてこず、残りの六首の内半分は恋の歌だったからです。川と恋、なんとながりは少しも感じられませんが、恋のイメージで自然のものといえは華だと思っていたからです。しかしこれらの考えは歌の意味を読み解いていくうちに疑問から共感へと変わっていききました。

例えば 瀬をはやみ 岩にせかるる 滝川の われても末に あはむとぞ思ふ」この歌は、崇徳院が詠んだ歌で、瀬の流れが速いので岩に急流がせき止められ、二分されても再び行流するようにあなたとの仲も今は隔てられていても将来はきっと「緒になるだろう」という意味があるらしく、川の流れと自分の思いとを重ね合わせて、長々と自分の思いを語るよりも短い歌に思いを込めたほうが読み解く楽しみがあり、これが粹な事なのかな、と思いました。

私は今回、歌と川についてしらべたところ、昔の人は川など自然のものに感情をのせることで思いを伝えているんだと思いました。そして、川が水は生活上必要なだけでなく自分の思いを伝えるうえでも必要で、

古くから人との繋がりが強い存在なんだと新たに感じました。

未来につながる貴重な水

AICJ中学校 三年 西村 みつね

私達の生活の源である水に関する問題が頻繁に取り上げられるようになってきた。

知己悠は水の惑星と呼ばれるほど水が豊富である。では、その水全てを飲むことができるのだろうか。実は九十八%が海水でできているため、淡水はたったの二パーセントしかない。しかも、その大部分は南極や北極の氷山などで私達が利用できる水は全体の0.0%にも満たないのである。日本の水は清潔であり、蛇口から出る水を飲むことは当たり前になっている。しかし、日本のように衛生で安全な水が出てくる国はたったの十五か国しかなく、約七億人が水不足で苦しんでいる。そう考えただけでも、綺麗な水が飲めることがどれだけ貴重であることが分かる。

私の住んでいる山口県では市民の水への関心を深めようと、「みずいく」という体験がある。「みずいく」は「水育」と「水行く」を表現した造語だ。水育は講座を通じて水道事業について関心を深め、水行は水道局が情報提要のため方方向に出向くことを意味する。私も小学校の時に水育について学んだ。私の通っていた小学校では、実際に浄水場に行き、水が綺麗になるまでの流れを見学した。そこでは、浄水されるにつれ、川の水が薬品によってきれいにされて家々に送られていた。私は山口県のように口当たりがよく飲みやすい水があたり前だと思っていた。しかし、広島県に来てみると、水道水は固く飲みにくかった。私はなぜ同じ国でも水に変化が出るのか考えてみた。結果「みずいく」が関係しているのではないかと考えた。山口県は「みずいく」で市民の水への関心が深まったことで、市民が川と大切にしているのだ。それに対し、広島県では「みずいく」が行われていない。そこで、広島県でも「みずいく」を取り入れるべきだと考えた。もし、「みずいく」を実施すれば広島県でも水のありがたみを知る人が増える。「みずいく」の重要性が認められれば、いずれは日本中、世界中にも広まるのではないかと。

私も水に対して関心が深まったと共に、水質汚染と水不足の重大性を悟った。そこで、簡単に取り掛かりやすい「ゴミ拾いと節水をしよう」と考えた。まず「ゴミ拾いは、自然破壊の原因となる「ゴミを拾うこと」で自然が守られる。自然が守られると川の水が綺麗に保たれるため、綺麗な水を人々や動植物が最大限に共有し合うことができる。川の「ゴミを拾っても、人が動いたところで何も変わらないと思うかもしれない。しかし、誰も動かないことには何も改善されない。私一人で空き缶を三十個疲労の戸、三十個の空き缶が誰にも拾われずに川にあるのでは大違いだ。節水は、私達が無駄遣いをしている水を水不足で苦しんでいる人達に回せると考えたからだ。私達は一日で大体二百三十リ程度の水を使っている。しかし、その中には節水できる水もある。例えば、シャワーの水を出しっぱなしにしないだけで一日で八リ節水できる。また、風呂の残り湯を再利用するとなんと、一回あたり約九十リも節水できる。このように私達が日ごろ行っている水を使う動作を節水を意識しながら行うだけでかなりの水の量が節水できる。そして、節水できた水を水不足で困っている人々に回せる。

これらのことから私達の生活は水によって成り立っている。そんな大切な水を守るためには一人一人の心がけが大切である。また、関心を深め、感謝し、未来につながる「いくべき存在」であることを知っておくことも大切である。

私たちの暮らし方

福山市立精華中学校 二年 西山 桃可

えっ？！とびっくりした声が上がりました。

数年前、家を建て直した時に浄化槽も新しくしました。私の住んでいる地域は、都会とは言えません。でもすぐく田舎というわけでもありません。でもまだ下水道が通っていません。私たちの地域は浄化槽を利用しています。浄化槽を新しくしたときに、今まで使っていた浄化槽が単独処理浄化槽だったことに母が驚いていました。

私は母がなぜそんなに驚くのが不思議で、母にたずねると、自分で調べてもらい。と言われたので調べてみました。わかったことは、浄化槽には単独処理浄化槽と合併処理浄化槽の二種類があるということです。単独浄化槽は水洗トイレだけを処理する浄化槽で、生活排水はそのまま流れてしまいます。合併浄化槽は生活排水もあわせて処理します。平成13年以降は単独浄化槽は設置できなくなりまし。しかし、それ以前に設置された単独浄化槽はまだ多く残っています。環境省によると瀬戸内海の水質汚濁負荷量の割合は、生活排水が約5割だそうです。合併浄化槽家庭から出る水の汚れを、単独浄化槽の8分の1まで減らせるそうです。でもまだ半分は単独浄化槽のままです。

母は、「じゃあ、全部合併のやつにしたらいいじゃないの？なんて最初から合併じゃなかったの？」と、たずねました。

母は、「昔は単独でも十分だったか、技術がそこまで追いついていなかったんだろうね。それに、お金のかかることだから、すぐにかえることも難しいよね。でも、川に洗剤の水がそのまま流れていたことにはとても驚いたし、知らなかったことも恥ずかしかったよ。家の前の川もそりゃあ汚れてしまっただけじゃないよ。ママが小さな頃は、魚もたくさんいたの。」

と、とても悲しそうでした。私も今回調べてみるまで、生活排水がそのままながれていることがあるなんて知りませんでした。毎日の生活の中で、自分が環境にどんな影響を与えているか、考えるきっかけになりました。生活排水の中で一番汚れているのはキッチンからの排水だそうです。母がよへ、

お汁残したらいけんよ。」

と言っていたのは、環境のことも考えて言っていたのだなと思いました。小学5年の時に、地元のリサイクル工場に工場見学に行ったとき、飲み残しのあるペットボトルは、工場でわざわざ中身を捨てている、中身をそのまま捨てるのは環境破壊につながる、話をききました。その時、飲み残しはそのまま捨ててはいけないんだな。と思いました。でも、家の流しの捨てても環境破壊につながる可能性があるとは思いませんでした。

今回は浄化槽のことを調べたから気がつくことが多かったけど、環境をよくするために考えることが多いのに、自分が環境にどんな影響を与えてしまっているのか考えることは、少なかったのかなと思いました。

これからは、もっと自分の生活がどのよりに環境に影響を与えているのか考えながら生活できていければいいなと思います。そしてまた、私の町の川で、今よりももっとたくさん生き物を見ることが出来ればいいなと思います。